

テレビ人のヒ・ミ・ツ

フロにおハナシ聞いちゃいます!
おしえて人

U型テレビの出演者のみなさん



U型テレビ木曜出演者の方々。写真左から、キャスターの水野さん、メインキャスターの大村さん、ゲストコメンテーターの小菅さん、気象キャスターの菅井さん、キャスターの八木さん。



▲あたたかな雰囲気にもまれた収録現場

支え合うテレビ

月々金曜日(15時55分〜17時54分)にUHBで放送されているU型テレビを取材した。とてもアットホームな雰囲気、見ている私たちまで楽しくなるスタジオ。アナウンサーの水野さんは「大村さんはすごくパワフルで、ゲストの人を楽しませ、気持ちよく帰ってもらえるような心く



▲3カメさん、カメラのお値段は?

ばかりしてくれまします。U型テレビのチームワークのよさは、大村さんの人柄にあると思う。と笑顔で言っていた。テレビに映るところで仕事をしているキャスターやゲストはもちろん、お天気レポートのために屋外に走り出すカメラマン、映像を見ながら生で文章を読むナレーター、秒単位に切り替えるモニター操作の人、生放送の責任感が伝わるタイムキーパー、こと細かにカンペで伝えるアシスタントディレクターなど、番組ひとつをつくるためにたくさんの人たちが協力しあっていることを知った。



▲テレビを支えるスタッフの方々



▲大村さんを、ズ〜〜ム!!

この仕事に活かすため、趣味としていろいろなジャンルの本を読んだという。高校時代は通学中の電車で1日4時間の読書をした。4時間は文庫本1冊を読み終えるような時間だから、1日1冊を目標に本を読んでいた。すると知識が豊富になり、活字を追うことが得意分野になった。その結果、情報番組の司会をするにあたって要点が瞬時にわかる力が自然に身についたそう。



▲頑張ってる楽しんで仕事するのがモットー

報道への情熱あふれる大村さん。この仕事に就いたきっかけは「好奇心が旺盛だった。ニュースとか見るとそこに行きたくなる。世の中の関心がある場所へ一番に行きたかった。ずっとそういう仕事がしたいと思い、新聞記者にもなりたかった。テレビ局で何かをしたいと思ったら、たまたまここにいます。」

お茶の間はもちろん 私も知りたい

新鮮な毎日

元気の源は「毎日情報が動いて、いろいろなニュースの起こる現場が新鮮で、一日一日楽しく生きていること。」と言う。さまざまな情報から要点を見つけ視聴者に共感してもらえ、コメントを言うといった、司会者らしい考えが表現されていた。また「東京でのリポーター時代は行きたいところに行かせてもらっていたが、今は立場が少し違うので代わりに行ってきてくれた人から報告を聞き、視聴者がさらに知りたいことや気になっていることをスタジオで聞き、より深く物事を伝えられれば。」と思っている。



▲CM中も楽しくU型トーク

情報番組の司会者として

視聴者が「そうだ、そうだ」ということを伝えたい思いがある。「見る人みんなが最終的にU型テレビの大村が言っていたことに共感してくれるかどうか。新聞も同じ。読んだ人が共感するかどうかだから」と語る視線に、この仕事にかける熱き思いを感じた。

キャスター
大村正樹さん

札幌大谷大学社会学部地域社会学科開設記念イベント

これからの社会はどのような人を求めているのか

日時 平成24年7月10日(火) 午後6時開場/午後6時半開演
会場 京王プラザホテル札幌 地下1階プラザホール(札幌市中央区北5条西7丁目)

入場料 無料(申し込み期限は6月末ですが、定員になり次第締切となります)

ゲスト 佐藤のりゆきさん(テレビキャスター、北海道大学客員教授)

対談者 平岡祥孝(札幌大谷大学社会学部学部長)

プログラム 第1部 佐藤のりゆきさんの講演 夢がみつからない若者たち
第2部 のりゆき感動!こんな学部ができたの!

入場申し込み/お問い合わせは電話・FAX・メールのいずれかでご連絡ください。

電話 011-742-1651

FAX 011-742-1654

メール hiromi_kitago@sapporo-otani.ac.jp
(札幌大谷大学 担当:北郷/西脇)

告白はJ Rタワーで？

気象キャスター
菅井貴子さん

お天気の可能性

菅井さんは、気象予報士になろうとしたきっかけについて「理数系に興味があり自分で原稿を書いたり、自分が思ったようにお話しすることができるから。」と言う。

話し方について聞くと「以前は声が高すぎると言われた。声があまりにも高いと台風ときなどは、うれしそうに聞こえるからやめたほうがいいと言われ「声を低くする訓練をして、今も心がけています。」と話してくれた。



▲北海道が好きすぎて、今ここに

道民が愛すアイス

天気といういろいろなものとの関係を知る菅井さんは、J Rタワーのエレベーターと告白の関係について話してくれた。「エレベーターで下がれば、気圧が上がる。気圧が上がると、副交感神経が

これから目標は「北海道のお天気はすごくバラバラで、いろんな可能性があると思う。北海道の可能性をどんどん見つけて、将来はそれを活かして北海道で社長さんになりたいと思います。社長っていつでも、社員一人社長一人。こじんまりとしたお仕事したい。」と明るく話してくれた。



▲お天気解説「ソラキブン」、明日の気分は？



▲おちゃめなスーパー理系ウーマン

また、天気とアイスクリームの関係では「アイスクリームって22℃を超えると売れ行きがよくなるの。やっぱりあったかいところのほうが売れるのになって思ってた。調べてみたら、沖縄とかそうでもなくて北海道は1年中アイスクリームが売れているみたい。それは建物があつたから、アイスとかビールが売れる。」とも話してくれた。

動物のしあわせって？

ゲストコメンテーター
小菅正夫さん

前例をつくるのは自分

旭山動物園を一躍有名にした小菅元園長。興味深いたくさん施設のほどこに考えたのか。皆さんも気になる所でしょう。さぞかし苦労して工夫を凝らしたものだと思いきや、実はとても簡単だった。動物がどうやって暮らしているか、何をしているのが幸せなのか、だけを考えていたそう。



▲「一」聞くと「百」も返ってくる動物のスペシャリスト

動物園にいる動物は人間の欲のために檻に入れられてかわいそうと思われがちですが「旭山では、動物がかわいそうと言うお客さんはいない。動物に目をきらきらさせ、嬉しそうに帰っていく。」と言う。

しかし、その笑顔をつくるためには大変な努力が必要だ。前例がないことをするとき「そんなことはできるわけがない。」と常識で否定する人が必ず出る。例えば、ホッキョクグマ館のドーム状のカプセルは、クマがたたいて割れたらどうするのかと言われたため、カプセルの下にリンゴやバナナなど好きなものを置き、クマが叩いたときに割れないか確かめた。小菅さんは「前例は自分でつくるもの」と言う。

いのちを預かる

獣医でもある小菅さんは「思い残すことがないように命と真剣に向き合うことが命を預かるということ。例えば、飼っていた犬が死んだときに涙を流してごめんねというようではダメ。全部やったと自信を持って言える人だけに動物を飼う資格がある。」と考えている。これは、命だけではなく、いろいろなことにつながるだろう。

飼育員になるには生物はもちろん、数学や国語から美術や音楽まで必要だと言う。とにかく、教科を選ばずにすべての勉強をがんばることが小菅さんのようになるための第一歩のよう。



▲ゲストコメンテーターとしてわかりやすく解説してくれる小菅さん

旭山動物園を退職して3年、今は日本に国立動物園をつくる活動をしている。「国立博物館や国立芸術劇場はあるのに国立動物園がないなんて。」と嘆いていた。



▲数台のモニターと時計でこまめに確認。なぜ時計が2つ？



▲機材とモニターだらけけど、なんだか落ち着く



▲スポットは手元を照らすため明るすぎたらモニターが見えない

オオタニ高校のせんせいたちをご紹介します。

3 せんせいずかん

スウガクシュニシクフクソウ類
ワタナベアキコ

- ▶ 生息地 職員室のひげの間
- ▶ 好きなもの アボカド、ドライマンゴー、キラキラしてるひと
- ▶ 嫌いなもの いもむし、うじ、ウジウジしてるひと

目標
大谷では初めて、道内では10年ぶりとなる高校日本代表入りが決まった時は「自分が選ばれるとは思ってなかったのびびりした。」と謙虚に話す一方、8月に行われるタイ遠征は「楽しみ。気持ちでは負けたくない。」と力強く語ってくれた。大谷バレー部としては、全国ベスト8を目標としている。

元気の源「スーパカレ」
お母さんが試合前や大会前に作ってくれるそう。彼女のパワワードとなっていて、とても好きなものが話す様子から伝わってきた。

大谷高校バレーの魅力と学んだこと
「あたたい人が多くて、そのサポートが心強い。大谷バレーは全員でプレーするというのが魅力です。」と結びつきの強さを語ってくれた。「最後まであきらめない。日常生活を大切に。あいつは生活の基本であり、バレーでも大事なことです。」ここに彼女のメンタル面の強さを感じた。

加納 菜未
Mami Kanou

バレーボール部キャプテン高校3年生。5月の東日本選抜選手権大会で初優勝。6月の全道大会で優勝し、全国高校総体への出場を決める。高校日本代表入りし、タイ遠征に参加する。

がんばる部員に聞いてみよう！
ブイッタンビュー

第63回
学園祭
テーマ「YOUTH」

一般公開
7月7日(土) 9:30 ~ 14:00

クラス発表 (3年模擬店・2年舞台・1年合唱)、
クラブ発表 (舞台・展示)、有志パフォーマンス再現、バザー

特設WEBサイトで紙面に掲載しきれなかった記事が見られる！
www.s-ohtani.ed.jp/17

スマホでも！